

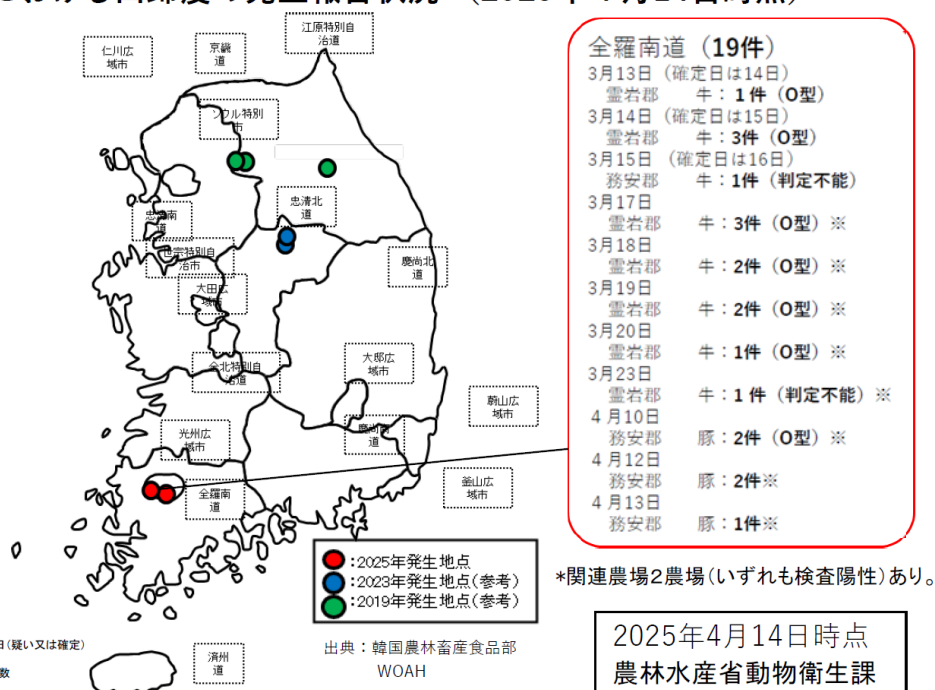
主	● 2025年の韓国における口蹄疫の発生について	1
な	● 家畜の感染症予防に係る研修会を開催しました！	2
内	● サシバエ対策について	3
容	● 本県における野生イノシシの豚熱感染状況と対策	4
	● 牛由来原料（ビーフミール）の鶏・豚用飼料への利用が再開されました！	5

2025年の韓国における口蹄疫の発生について

大家畜課 防疫担当

韓国では、2025年3月に1年10か月ぶりに口蹄疫の発生が確認されました。4月13日までの間に、19件（牛14件、豚5件）と発生の拡大が確認されました。

韓国における口蹄疫の発生報告状況（2025年4月14日時点）



現在、日本国内において口蹄疫の発生はありませんが、韓国、中国及び東南アジアなどの日本の周辺諸国では、口蹄疫が継続的に発生しており、国内への侵入リスクは依然として高い状況です。

畜産関係者の皆様には改めて飼養衛生管理の徹底や早期摘発のための監視の強化をよろしくお願いいたします。

●口蹄疫（FMD）とは

口蹄疫ウイルスが原因で、対象家畜は牛、豚、めん羊、山羊、水牛、鹿、イノシシなどの偶蹄類です。口や蹄に水疱形成、発熱、多量の流涎、跛行（足をひきずる）などの症状を示し、幼獣では高い致死率を示します。極めて感染力が強く、原因ウイルスが付着した飼料、靴、車、風などにより容易に拡大します。消毒薬として、**ヨウ素系**、**塩素系**、**アルデヒド系**が有効であり、**オスバン**などの**逆性石鹼（塩化ベンザルコニウム）**や**アルコール**は**効果がありません**。なお、消毒薬は糞や土などの**有機物の混入**により**消毒効果が大幅に低下**するので、長靴等は事前にブラシなどを用いて丁寧に水洗いを行い、有機物をしっかり落としてから踏み込み消毒槽に浸漬させましょう。

●口蹄疫罹患家畜の特徴的病変

・牛の病変



歯床部粘膜のびらん(黒毛和種)



舌のびらん(黒毛和種)



乳頭の水疱(黒毛和種)

・豚の病変



蹄冠部皮膚のびらん



蹄球部皮膚のびらん

家畜の感染症予防に係る研修会を開催しました！

家畜衛生推進協議会

令和7年7月16日(水)に、市町、農業協同組合、県機関の担当者や生産者、県立農業大学の学生など計30名に参加いただき、標記研修会を開催しました。

何れも県南家畜保健衛生所職員を講師として、「ワクチンや消毒による感染症予防について」の講義と石灰乳塗布機による牛舎消毒の実習を行いました。



石灰乳塗布機の使い方について説明



農業大学の乳牛舎に石灰乳を塗布

当協議会では、地域の要望に応じて研修会・講習会の開催に対応しております。また、地域ごとに石灰乳塗布機や石灰散布機などの機器を拠点配置しており、必要に応じて貸し出しも行っております。研修会や機器の貸し出しについて御要望があれば、当協議会まで御相談ください。

サシバエ対策について

大家畜課 衛生担当

サシバエは、昨年 11 月にわが国において初めて発生が確認されたランピースキン病のほか、牛伝染性リンパ腫を媒介する吸血昆虫です。サシバエの活動が活発となる季節となりましたので、牛を病気やストレスから守るため、改めて対策をお願いします。

●サシバエの仲間について

主な種類	主な分布	発生	寄生性	活動	吸血	越冬
サシバエ	全国	堆肥、 残飼など	吸血時のみ 休息は草むら等	舎飼いに多い	♂♀	主に サナギ
ノサシバエ	東北以北など 高冷地	糞など	昼夜を問わず 牛に寄生	放牧牛に多い		

- ・岩手県の畜産環境では主にイエバエ、アブ、サシバエおよびノサシバエが混在していると思われます
- ・ノサシバエは頭部を地表に向け、腹部を挙げた姿勢で寄生する習性があるので、他のハエと容易に区別できます

●サシバエの生活環



- ・生息割合は、成虫が2割、卵からサナギまでが8割です
- ・卵から成虫になる期間は、気温などの条件で変化します
- ・条件が良いと、10 日ほどで卵から成虫になります
- ・幼虫は湿った場所で生活しますが、3 齢幼虫はサナギになる前に乾燥した場所に移動します

●主な昆虫成長制御剤（IGR 剤）の特徴

系統	作用機序	作用	作用期間
シロマジン系	脱皮阻害	食毒	主に 1 齢幼虫～2 齢幼虫
ピリプロキシフェン系	サナギ化阻害	食毒、接触毒	1 齢幼虫～3 齢幼虫

- ・食毒による効果発現には、食欲旺盛な 1～2 齢幼虫期の短期間に薬剤を食べさせる必要があります
- ・接触毒は、1～2 齢幼虫期の接触に加えて、3 齢幼虫がサナギになるために移動する途中で接触しても効果を発揮するので、作用機会が多くなります
- ・表面が乾燥した堆肥など、粒剤が幼虫のいる底部まで届きにくい場合は、水に溶かして使用するなど状況に応じて対応する必要があります
- ・イエバエ成虫の駆除薬（ベイト剤）は、サシバエが薬剤を好んで食べないため、効果を期待できません

●サシバエの対策時期

- ・春先の積算気温が一定の基準に到達すると、越冬したサナギが羽化すると考えられており、成虫の活動は最低気温が 15℃を超える時期（県南地域では5月中旬頃）から急増します
- ・温暖化により、以前よりサナギが羽化する時期が早まっているので、春先から、IGR 剤などの吸血昆虫を意識した対策が必要です
- ・また、秋も 10 月中旬頃まで（暖かい牛舎内ではそれ以降も）サシバエの活発な活動が予想されますので、引き続き、対策をお願いします

本県における野生イノシシの豚熱感染状況と対策

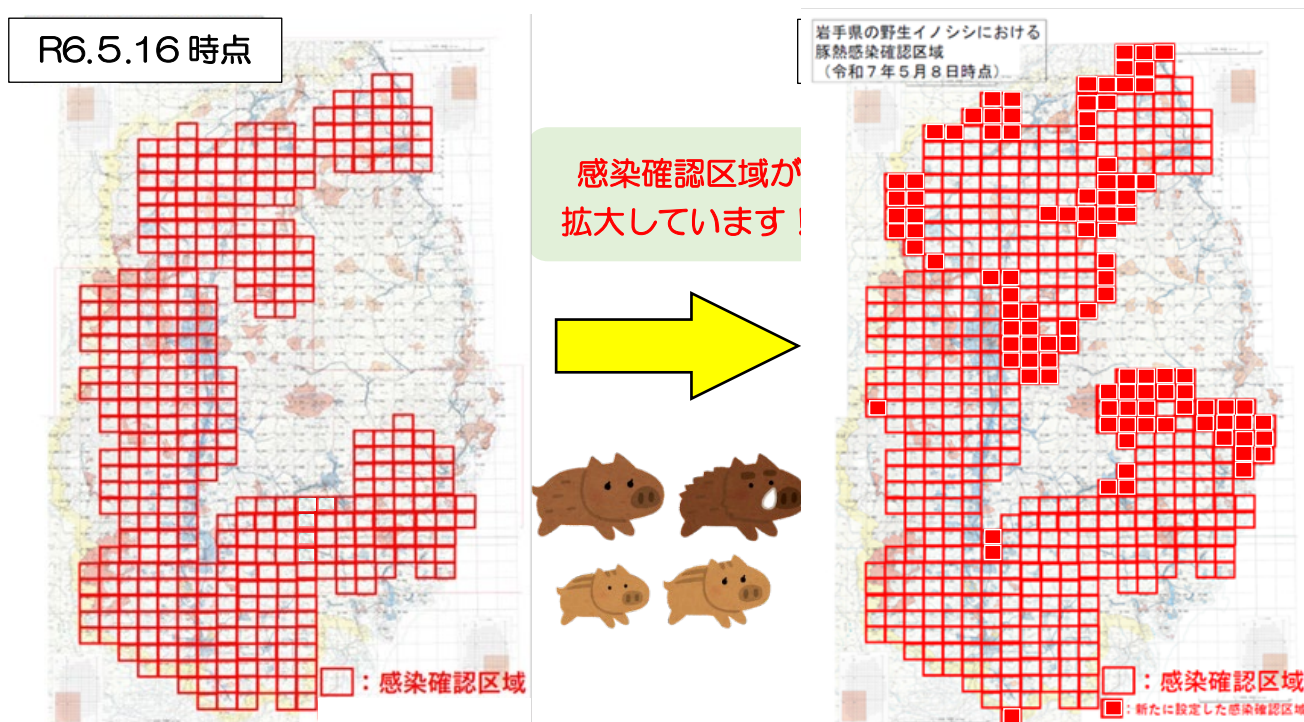
中小家畜課 中家畜担当

1 野生イノシシの豚熱感染状況について

岩手県では、野生イノシシの豚熱感染状況を把握するため、令和元年10月から検査を実施しており、令和4年4月、本県で初めて野生イノシシから豚熱ウイルスが検出されました（捕獲場所：一関市）。令和7年7月10日までに2,191頭（死亡48頭含む）の検査を実施し、21市町で238頭の感染が確認されており、感染地域が徐々に拡大しています。

令和6年度以降も新たに遠野市、住田町、洋野町、二戸市、軽米町、宮古市及び山田町で感染が確認されました。

感染確認区域の情報は、県ホームページで確認できますので、状況を注視しながら、野生イノシシからのウイルス侵入防止対策に万全を期すをお願いします。



2 豚熱経口ワクチン散布状況について

野生イノシシ対策として、本病ウイルスが野生イノシシを介して養豚農場に侵入するリスクを低減するため、本県では市町村及び関係団体と連携し、令和4年度から山林等に年2回（4月～5月、10月～11月）本病経口ワクチンの散布を行っています。なお、令和7年度からは全市町村で散布されることとなりました。

年度	散布地点
令和4年度	11市町 94地点
令和5年度	30市町村 308地点
令和6年度	31市町村 333地点
令和7年度	全33市町村 400地点



【豚熱経口ワクチン】

岩手県ホームページ（豚熱に関する情報）



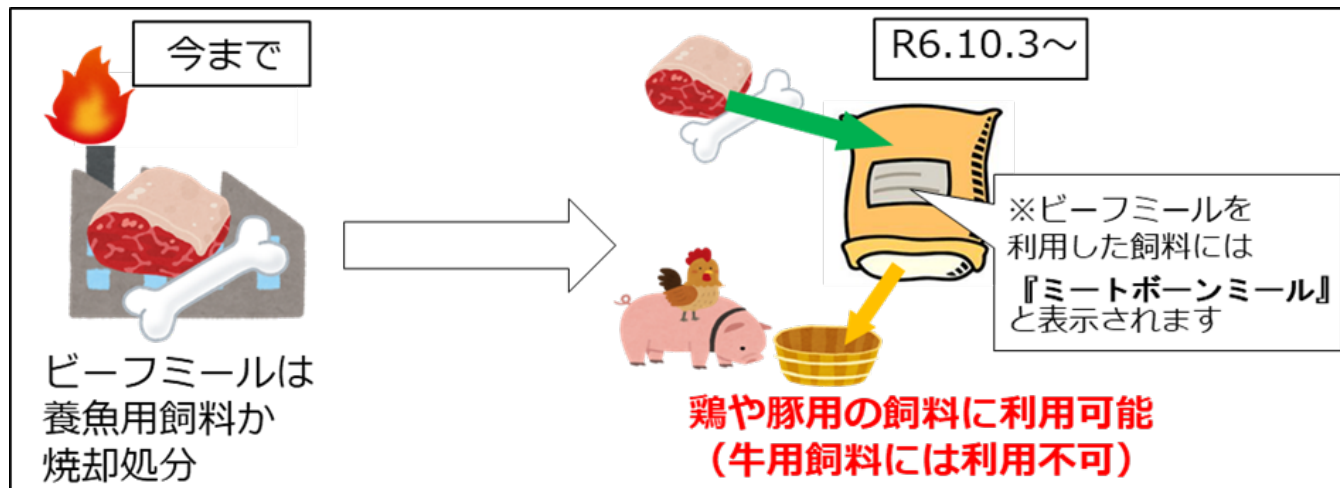
検索サイトで「岩手県 豚熱 イノシシ」と検索するか、トップページから以下のカテゴリをたどってください。
トップページ＞産業・雇用＞農業＞畜産技術＞豚熱に関する

牛由来原料(ビーフミール)の鶏・豚用飼料への利用が再開されました！

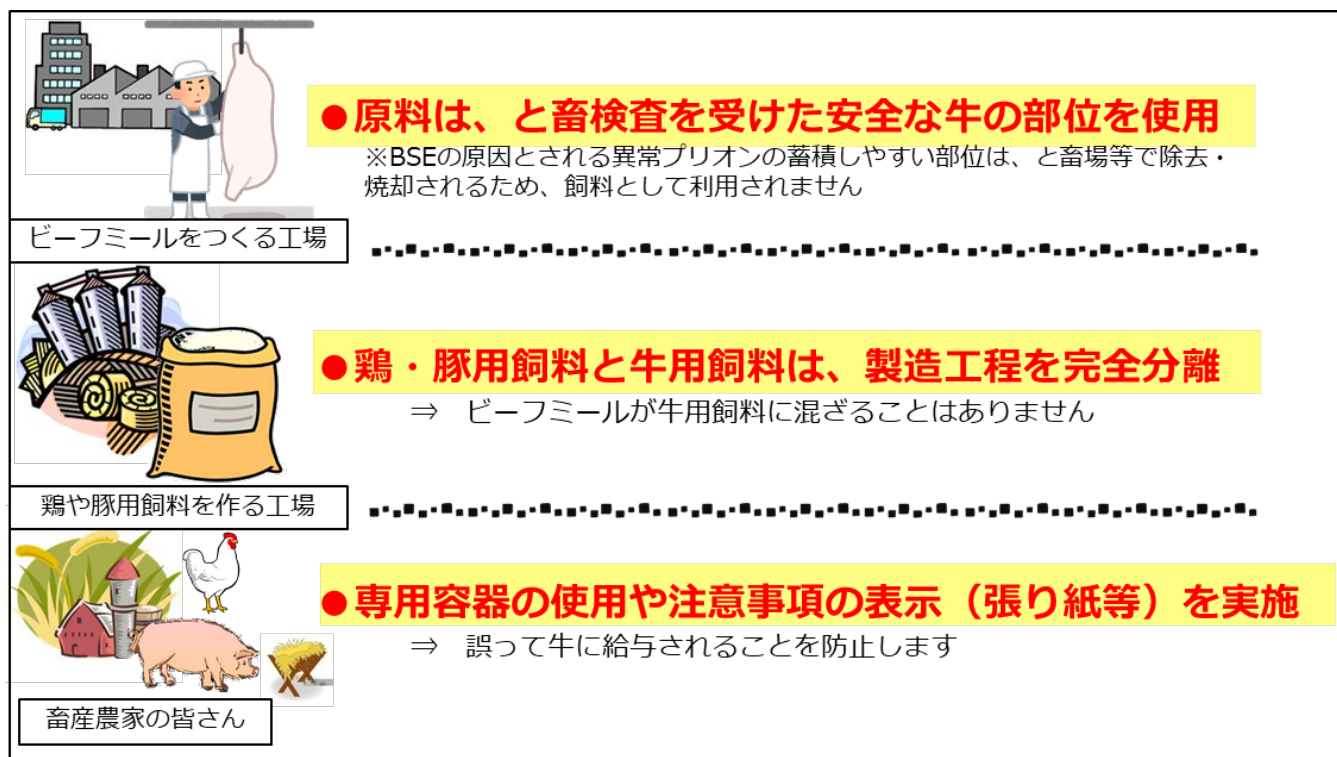
飼料安全担当

これまで**牛由来原料(ビーフミール)**は、牛海綿状脳症対策のため養魚用飼料に用いられる以外は主に焼却されておりましたが、令和6年10月3日から、豚及び鶏用飼料(B飼料全般)に用いることができるよう、法改正が行われました(これまでと同様、牛用飼料には利用できません)。

これに伴い、ビーフミールを利用した飼料には、『**ミートボーンミール**』と表示がされます。



【BSE発生防止のためのビーフミールの安全管理】



牛と他の家畜(豚、家きん)を飼養している農場には、令和7年9月までに巡回指導を実施する予定です。また、今後も飼料製造工場や飼料販売店舗への聞き取り調査を行い、BSE対策を継続します。

〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字東館 41-1

岩手県南家畜保健衛生所

Tel 0197-23-3531

Fax 0197-23-3593

岩手県南家畜衛生推進協議会

Tel 0197-24-5532

Fax 0197-23-6988